

## 57. 在宅療養支援のための地域ネットワークの構築

## —「西区在宅ケア連絡会」について—

坂本 仁<sup>\*1</sup>、花田一誠<sup>\*2</sup>、近 祐弘<sup>\*3</sup>

## はじめに

日本においてすでに始まっている高齢化という社会構造の変化に対応した、社会システムが求められていることは周知のことである。この社会的要請に具体的に応えるために、札幌市西区において地域在宅ケアシステムの構築を目的とした実践的な試みがはじまっており、おおむね良好な結果が出されているので報告する。

## 発足までの経過

「医師の使命にかんがみ、公衆衛生の向上を図り、社会福祉を増進するために…、地域の保健活動に関する事業を行う…」と、定款に謳っている札幌市医師会としては、数年前に具体的な活動に取りかかる時期となっていた。医療システム検討調査委員会は、中長期的な観点から地域医療システムの考案を行っていたが、平成7年2月在宅療養についての報告をまとめ、その提言を受けて同年5月在宅療養支援委員会が発足し活動が始まった。一方、医療システム検討調査委員会もその後検討を重ね、平成8年12月再び報告書をまとめ、札幌市在宅療養支援システム構築へ向けての構想を提言した。両委員会は、平成9年3月「在宅療養等支援に向けての今後の課題」として、1) 情報の収集と会員への伝達 2) 情報システムの確立 3) 各種モデル事業への積極的関与 4) 地域在宅ケアシステムの実践的運用の開始 5) 会員への在宅療養支援体制への参画の呼びかけなどの役割をはたすことが望まれる、と報告している。

これを受けて、札幌市医師会西区支部および手稲区支部会員有志が、医療、保健、福祉の各分野の方々に、西区内に居住する患者のうち在宅療養を希望する人々の在宅療養推進のための連絡調整をはかる会議、を開催しませんかと呼びかけ、「西区在宅

ケア連絡会」が発足した。

## 「西区在宅ケア連絡会」について

発足にあたり当初掲げた活動目標を表1に示す。唯一、組織として、医師会員、MSW、訪問看護ステーション、在宅介護支援センター、西区職員から数名づつ参加の幹事会を構成しているが、あとの組織づくりはせず、ほぼ毎月一回、第二火曜日、西区区民センターでの開催を周知してある。これまでの開催状況を表2に示すが、これまでに3回、出席者にアンケート調査を行い活動の方向性を確

表1 西区在宅ケア連絡会の活動目標

- 1 西区内に在住し、在宅療養を希望する人の、在宅療養推進のための連絡調整をはかる
- 2 各施設、機関から現在の問題点の調整を求め提案をし、解決に努める
- 3 希望者の在宅ケアのサービスメニューを作成する
- 4 医療を希望する人の主治医をさがす
- 5 医療機関相互の連携を推進する
- 6 活動結果の見直しを継続的におこなう

表2 西区在宅ケア連絡会開催状況

9. 6.	4.	準備会	19名出席	
6. 25.		準備会	19名	(アンケート実施)
7. 15.		幹事会を構成	8名	
8. 29.		第1回 連絡会	24名	9例検討
10. 7.		第2回 連絡会	37名	5例
11. 11.		第3回 連絡会	37名	5例
12. 2.		第4回 連絡会	56名	4例 (アンケート実施)
10. 2.	3.	第5回 連絡会	78名	5例
	3.	第6回 連絡会	70名	3例
	4.	第7回 連絡会	86名	5例
	6.	第8回 連絡会	101名	4例
	7.	第9回 連絡会	107名	5例
	8.	第10回 連絡会	88名	2例 (懇親会)
	9.	第11回 連絡会	89名	2例
	10.	第12回 連絡会	104名	6例 (アンケート実施)
	11.	第13回 連絡会	90名	2例
	12.	第14回 連絡会	84名	2例
11. 2.	9.	第15回 連絡会	114名	4例

認しつつ開催している。出席者は表3に示すが、医師、看護婦、OT、PT、MSW、保健婦、西区役所保健福祉部職員、福祉関係施設職員、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、栄養士、ホームヘルプ担当者、患者の会など市民活動関係者、大学教員、関係学校学生、新聞雑誌記者、関係業種会社員、その他実に多くの分野から、毎回80～110名の出席がみられているが、現在までに一回でも出席したことのある方は、300名を越していると思われ、西区内の在宅療養にかかわる関係者のほとんどの方々は少なくともこの会の存在は知っているものと思われる。実際の症例の新規検討は毎回3～5例に行い、その他再提案、経過報告も行い、また、毎回関係のテーマに沿いミニ研修会の時間をとり担当者から説明を受けている。その内容を表4に示す。日常業務の中で不明、疑問に思う事項が整理され詳しく知る機会の少ない参加者からは非常に好評である。

実際の検討例は、ケアチーム内の情報交換の方法、後方支援体制のあり方、退院後の地域の担当医との機能分担を含めた病診連携のあり方、神経難病患者の療養方針の決定、各種サービス提供の具体的方針決定、痴呆者への対応、転居後の新しいケアチームへの情報連絡、など多岐にわたっているが、最近では処遇困難例を深く掘り下げていくうちに、社会保障制度、医療保険制度のあり方にも議論がおよぶことも、また、一年後の介護保険制度施行を念頭においた意見交換も少なくなく、将来的にチェック機能をもつことができる可能性を秘めていると思われる。

この会は西区という地域での関係者の緻密な連携を、医療のみならず他の分野の人々にまで広げ、高齢社会への対応として取り組んでいるわけであるが、地域にはどの分野の専門家も必ずいるわけで、このような連携を実践することにより、社会的要請に少しでも応えることが可能ではないかと思われる。

表3 西区在宅ケア連絡会出席者

回	医師	看護婦	リハビリ	MSW	保健婦	行政	その他	計
1	9	1		3	8	2	1	24
2	11	10	3	4	6	2	1	37
3	11	7	1	4	8	1	5	37
4	8	15	7	5	7	4	10	56
5	16	14	5	9	14	5	15	78
6	13	16	10	7	11	3	10	70
7	17	22	9	13	8	2	15	86
8	21	27	9	8	10	9	17	101
9	20	26	18	13	9	2	19	107
10	21	29	8	6	8	3	13	88
11	19	28	7	8	10	3	14	89
12	26	28	4	10	12	4	20	104
13	23	26	3	7	10	2	19	90
14	15	28	9	12	5	4	11	84
15	22	35	12	12	7	6	20	114

表4 西区在宅ケア連絡会検討例と研修テーマ

回	新規提案	再提案	経過報告例	研修テーマ
1	9例			
2	3	2例		
3	5			
4	3	1		
5	5			
6			3例	
7	5			
8	2	1	1	
9	5			
10	2			
11	2		1	
12	6			
13	2			
14	2			
15	4			

市立札幌病院看護相談室から  
ホームヘルパー事業について  
在宅介護支援センター業務について  
訪問看護ステーションについて  
システムの考え方は何か？  
「痴呆」について  
「成年後見制度」を巡って  
訪問リハビリについて  
懇親会開催（54名参加）  
過去10回までのその後の経過  
在宅ケアにおける疼痛管理  
「社会福祉協議会」について  
生活保護について  
「介護保険モデル事業」結果

### おわりに

地域在宅ケアシステムとして構築をめざした「西区在宅ケア連絡会」の実際の運用の結果、1) 西区においては十分に機能しつつあること 2) 各区における「連絡会」の発足が望まれること 3) 札幌市内の各「連絡会」の連絡調整と統合のために札幌市医師会としての活動が望まれること 4) 介護保険制度に対するチェック機能が望まれること 5) 将来的にNPOとなり得る可能性があることが判明した。